授業デザイン

教科・科目：保健体育・体育（武道）　令和２年１０月２６日（月）

実施学級：１年３・４組男子
実施場所：柔道場
単元名　：柔道　　３／３時

１　本時の指導目標	多様な動きを体験し、状況に応じた適切な動きができる。
２　本時の手立て	転倒した際に、適切な動きをとることができるよう、柔道の動き（受身）を説明し、実践する。
３「深い学び」に導くための問い	問い　柔道の基本動作である受身や体さばき、又は投げる（倒す）などを知っている（できる）ことが、日常のどうような場面で発揮されるだろうか。また、どのようなメリットがあるだろうか。
	問いのレベル **□Ｉレベル　Ideas　知識、技能の習得** （基本的な事項、基礎的な事実関係、定義、基本的な概念等を確認するような問い） **■Ｃレベル　Connections　既知の知識・概念や他領域とのつながり** （教科の既習内容、他教科の内容、実生活の内容などと、学んだことの関係やつながりを理解させる、あるいはそれらとつなげて説明させるような問い） **□Ｅレベル　Extensions　応用、活用** （学んだことを全く新しい状況に応用させるような問い。答えが一つに定まらない問い。リアリティがあり、他者性を前提とした問い）

４　学習の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価方法
導入	●本時の目標を提示する。 ●体操、筋力トレーニング、器械体操をおこなう。	○取り組む際に、ケガをしないポイントを適宜説明し、苦手な生徒へは個別に対応する。	

展開	●前回の授業の振り返りとして、受身（前回り受身）をおこなう。大の字で仰向けになっている生徒にぶつからない様に、身体の動きをコントロールし実践する。 ●自分１人で受身をとることができるようになった後、どのような場面で受身をとれるようになったらよいか考える。 ●相手を投げるための体の使い方を理解し、適切に投げる。 ●相手に投げられた際に、適切に受身をとり、怪我の防止につなげる。	○受身の際に、高さを出さずに、前方向に大きく移動することを意識させ、怪我の防止につなげる。 ○転倒した際などに受身を実践できるとよいが、そのような場面は不意に訪れることを想定し、相手によって投げられた際に適切に受身がとれるように指導する。 ○相手を投げる際に、どのような点に気をつけて実施することで、怪我の予防につながるかを説明しながら、取り組ませる。	観察
まとめ	●学習のまとめと振り返りをする。	○実生活で、柔道を生かすための注意点について触れる。	